

わたしのまちの

高槻市 TAKATSUKI SHI

# 風物詩

見上げれば子どもたちの夢がいっぱい

～わくわくストリート21～

高槻市は、昭和18年に人口3万人余りのまちとして誕生してから京都や大阪のベッドタウンとしての人口急増期を経て、現在では約36万人の人口を擁する中核市に成長を遂げてきました。中心となる市街地には2つの百貨店をはじめ、活気ある生鮮市場や商店街を有し、多くの魅力的なお店も集積しています。また、駅からの徒歩圏内には、キリシタン大名として有名な高山右近も居城としていた高槻城の名残を伝える「城跡公園」をはじめ、古い由緒を伝える「上宮天満宮」、西国街道の宿場町として栄えた「芥川宿」など、豊富な歴史資源が近年注目を集めており、歴史を活かしたまちづくりに関係者の熱意も高まってきています。

そうした中、市民や事業者などの協働による、賑わいあるまちづくりに向けた取組として、商店街を舞台に巨大絵画を展示する「わくわくストリート21」をご紹介します。

## 秋恒例の巨大絵画展

今年で8回目になる秋の恒例イベント「わくわくストリート21」は“見上げれば子どもたちの夢がいっぱい”をテーマとして、毎年10月中旬から1ヶ月間、商店街のアーケードなどに縦2.7m、横3.5mの子どもたちが描いた巨大絵画を展示する一大アートイベントです。今年も、市内の保育園児から高校生までの34グループ、1,000人を超える子どもたちが絵画の制作に参加しました。

巨大絵画の掲示がスタートする「オープニングイベント」では、会場となった阪急高槻市駅構内に、高校生による高槻太鼓の演奏や保育園児のコーラスが華やかに響き渡り、1ヶ月間におよぶ「わくわく

月間」の開幕が告げられました。

わくわく月間中には、数多くの子どもの向けイベントが開催されており、商店街には子ども達の明るい声と笑顔があふれます。なかでも高槻センター街（商店街）により企画・運営される「わくわくフェスタ」では、大学生による人形劇やバルーンアート、親子ミニ四駆大会、けん玉名人のスーパーテクニック披露、ふわふわ風船ドームなど多くのアトラクションが無料で行われ、会場となった高槻センター街はイベントを楽しむ親子など多くの人で賑わっていました。

今年は残念ながら雨で中止となりましたが、子ども達が店主になって商い体験を行う「わくわくキッズマーケット」や、商店街を歩いて回る「わくわくスタンプラリー」など、新たな企画も次々に生まれています。

「わくわくストリート21」は商店街を舞台として、秋のシーズンを代表する恒例行事に発展してきました。実行委員会を構成する、市民・事業者・企業・関係機関が一体となり、共に汗を流し、このイベントをつくりあげていくことで、まちに新たなエネルギーと賑わいが生み出されています。

皆様もぜひ一度、子どもたちの夢を描いた巨大絵画の鑑賞にお越しください。



## ● お問い合わせ先 ●

高槻市都市産業部商工観光課  
（わくわくストリート実行委員会事務局）  
TEL：072-674-7411  
FAX：072-466-5025